



銀メダリスト竹内選手が猫山にやってきた！

No.1

竹内智香選手トークショー&スノーボードスクール・1/11

スノーリゾート猫山でソチ五輪銀メダリストの竹内智香選手なけうちともかのトークショーとスノーボードスクールが開催されました。

オープニングでは竹内選手の滑走が披露され、プロの華麗な滑りで会場は拍手に包まれました。

続いて、竹内選手と湯崎英彦広島県知事のトークショーが行われました。竹内選手は「スノーボードは転ぶことで上手になる。転ぶことは恥ずかしいことではないので、たくさん転んで上手になって、スノーボードを楽しんでほしい」とメッセージを送りました。

トークショーの後は竹内選手を講師にスノーボードスクールが行われ、参加した小学生は「優しく教えてもらえて楽しかった」と喜んでいました。



▲華麗な滑りを披露する竹内選手



▲トークショーで話す竹内選手(左)と湯崎知事



▲スノーボードスクールの様子

書き初めて気持ちも新たに

子ども書道教室・1/9

No.3

比和自治振興センターで「子ども書道教室」が開かれ、町内の小学生が参加しました。

子どもたちは正月にちなんだ言葉など、各自で書きたい言葉を選び、講師の谷口直美さんの指導を受けながら、書き初めを行いました。

「止め」「はね」「払い」などを意識しながら、一字ずつ丁寧に書き上げ、一枚書き終えるたびに谷口さんのもとへ見せに行きました。良かった箇所には花丸を書いてもらったり、直した方がよい箇所には直し方を書いてもらったりしながら、納得のいく一枚に仕上げようと一生懸命書いていました。



▲真剣な表情で筆を握る子どもたち

明日の地域を考える

TAKANO NO YOAKE・1/25

No.2

上高自治振興センターで、高野町自治振興区連絡協議会が主催する、「TAKANO NO YOAKE」が開催され、地域内外から約200人が参加しました。

同協議会は本年度、市の助成を受けて、地域の人口問題に取り組む「高野地域創生事業」を実施しています。今回のイベントは、各専門部が取り組みを発表し、課題解決に向けての道筋をつけることを目的に行われました。

発表を受け、アドバイザーの一般社団法人持続可能な地域社会総合研究所所長の藤山浩ふじやまひろさんから総括的な意見を聞きました。

その後、交流会が行われ、参加者は人口問題への各自の思いを伝え合いながら、楽しい時間を過ごしました。



▲発表の様子



みんなで奏でるハーモニー

第7回口和音楽祭・12/5

No.8

魅力ある学校づくりと地域連絡協議会と口和学区小中連携プロジェクトが主催する「口和音楽祭」が口和自治振興センターで開催され、口和地域の小中学生が参加しました。

各校の児童生徒たちは、この日のために練習してきた曲を堂々と披露し、きれいな歌声を会場に響かせていました。また、サクソフォン演奏者の前田悠貴さんとピアニストの三島友里さんを講師に迎え、音楽鑑賞が行われました。来場者は普段は聞くことのできないピアノの演奏に聞き入っていました。

スタッフは、「子どもたちの澄んだ歌声は感動を与えてくれる。引き続き開催していきたい」と話しました。



▲きれいな歌声を響かせる児童生徒たち

読み聞かせて20周年

おはなし会ダンボ クリスマス会・12/21

No.10

西城自治振興センターでおはなし会ダンボのクリスマス会が開催され、子どもから大人まで約50人が参加しました。おはなし会ダンボは、絵本好きの子どもを育てるために活動を始め、昨年で発足20周年を迎えました。

当日は、大型手作り絵本や子ども司書による読み聞かせなどが行われました。また、20周年を記念して地元の民話をもとに、メンバーが絵を描いた手作り紙芝居「六地藏」を披露しました。その他、会場にはこれまで作成した紙芝居4作品も展示されました。

代表者の増永高子さんは「この活動を通して、心豊かな子どもたちを育てたい。今後もさまざまな場所で、絵本の楽しさや地域民話を知ってほしい」と話しました。



▲紙芝居を熱心に見る参加者

華やかに新年を迎える

シルバー人材センターが門松としめ飾りを寄贈・12/25

No.7

庄原市シルバー人材センターしめ縄門松同好会の会員の皆さんが本庁舎の正面玄関へ門松としめ飾りを設置しました。設置された門松は高さ約2メートルで、松や竹、南天などできれいに飾られていました。

この門松としめ飾りは、竹やわらなどの材料の調達や作成を、会員自ら行います。とりわけしめ飾りは、苗の植え付け、刈り取り、乾燥まで行い、10月ごろから作成に取り掛かります。

本年も立派な門松としめ飾りで華やかによい新年を迎えることができました。



▲しめ縄門松同好会の皆さんが門松を設置

認知症への理解を深めるために

認知症サポーター養成講座・1/14

No.9

市内のケアマネジャーや介護職員などで構成する「キャラバンメイト」が、「認知症サポーター養成講座」を開催し、庄原警察署の警察官31人が受講しました。

講座では、認知症の症状やメカニズム、認知症の人や家族への対応方法などについての説明がありました。

また劇を交えて、行き先が分からなくなった認知症の高齢者に対する警察官の対応について解説がありました。

受講者は、「今まで受けたことのない講義で、分かりやすかった。今後の職務の参考にしたい」「本人が一番つらいと感じていることが分かった。丁寧な声掛けを意識したい」と話しました。



▲劇の様子

未来へつなぐ桜

株式会社伊藤園と庄原さくらフェスティバル実行委員会による植樹セレモニー・12/14

No.4

庄原市上野総合公園で、株式会社伊藤園と庄原さくらフェスティバル実行委員会による植樹セレモニーが行われました。この植樹は、株式会社伊藤園の「おーいお茶」発売30周年記念企画「わたしの街に、未来の桜を植えよう」プロジェクトの一環で行われました。

参加者は、ソメイヨシノの苗木を「未来につながり、咲き続けてほしい」という願いを込めて、一本一本丁寧に植樹していました。

また、オープニングセレモニーでは、庄原幼稚園の園児がアトラクションを披露し、会場を和ませていました。



▲オープニングアトラクションを披露する庄原幼稚園の園児



▲植樹に参加した皆さん

みんなで楽しくクリスマス会

おれんじカフェ・ええ塩梅・12/24

No.6

市役所東城支所1階ホールで「おれんじカフェ・ええ塩梅」が開催され、約40人が参加しました。

このカフェは、認知症になっても自分らしい生活が続けられるまちづくりを推進するため、交流や相談の場として、認知症の人や家族、認知症に関心のある人を対象に毎月開催されています。

当日は、身体機能低下予防の話やリラックス体操などが行われたほか、開催日のクリスマスイブにちなんで、このカフェを支援する東城地域の介護や福祉、医療の職員がハンドベルの演奏を披露しました。

参加者は「新しい参加者もいて、にぎやかだった」「歌って、笑って、楽しい時間だった」と話しました。



▲ハンドベル演奏を楽しむ参加者

手作りの卒業証書

総領中学校紙すき体験・12/9

No.5

総領町のハートリンクスで紙すき体験が行われ、総領中学校3年生8人が参加しました。

総領中学校では、30年前から総領地域の和紙作りの文化を学ぶことを目的に、3年生が手作りの和紙作りに取り組んでいます。

生徒は地域の人から「紙をすくときに繊維が入りすぎると破れやすい。濃さの調整が大切」とアドバイスをもらいながら、丁寧に作業をしていました。

体験した生徒は「先輩が体験している様子を見ていたが、自分で作ってみると思った以上に難しかった」「大切に作ったので、良い思い出になる」と話しました。

完成した和紙は、生徒の卒業証書に使用され、3月10日の卒業式で手渡されます。



▲慎重に紙をすく生徒